

主な出展リスト

1. 複数の「人形の精」～リメイクとアダプテーション～

- ◆ 楽譜 / 『人形の精』 / オーストリア / 1888年頃(SC-48)
- ◆ 参考: 台本(複写) / 『人形の精』 / ウィーン帝立・王立宮廷歌劇場 / オーストリア / 1889年(NK)
- ◆ 参考: プログラム / 『人形の精』 / ウィーン国立歌劇場 1997～1998シーズン / オーストリア / 1997年(NK)
- ◆ 食品[Liebig]トレーディングカード / 『人形の精』 / イタリア / 1890年代頃(CB-05-01～06)

2. 電気の女神としての人形の精 ～変容と分布～

- ◆ プログラム / 『エクセルシオール』 / ミラノ・スカラ座 1999～2000シーズン / イタリア / 1999年(PR-685)
- ◆ 参考: 台本(複写) / 『エクセルシオール』 / フランス / 1882年(NK)
- ◆ 参考: 台本(複写) / 『エクセルシオール』 / ドイツ、フランクフルト / 1891年(NK)
- ◆ 参考: 台本(複写) / 『パンドラ』 / ドイツ、フランクフルト / 1891年(NK)
- ◆ 葉書 / 『人形の精』 / レオン・バクスト画 / ロシア / 1903年(PC-COS-01)
- ◆ 写真(署名入り) / アンナ・バヴロフ / 『人形の精』 / 1914年頃(PH-D-196-08ws)
- ◆ 葉書 / 大阪電灯株式会社開業20周年 / 日本 / 1908年(NK)

3. 劇場の電化とバレエの変容 ～テクノロジーとジェンダー～

- ◆ アンティークプリント / 『画家の讒妄』 / 1843年(AP-020)
- ◆ アンティークプリント / 『大理石の乙女』 / 1845年(AP-088)
- ◆ 台本 / 『ビスマリオン』 / フランス / 1801年(LT-003)
- ◆ 台本 / 『エリノール』 / オーストリア / 1883年頃(LT-11)

※(NK)は、提供: 古後奈緒子

主な参考文献・資料

- ◆ Programmheft: Die Puppenfee, Wiener Staatsoper, Saison 1997/98. Zusammengestellt von Alfred Oberzaucher u.a. (Texte sind Nachdruck von Programmheft, Saison 1983/84.)
- ◆ Pappacena, Flavia (1998). The Transcription of the Ballet Excelsior and the Manuscripts of the Theatre Museum at La Scala. In: Excelsior: documenti e saggi. Di Giacomo.
- ◆ Otto, Ulf (2021). Das Theater der Elektrizität. Technologie und Spektakel im ausgehenden 19. Jahrhundert. J.B. Metzler.

Kenji Usui Ballet Collection

Fest of Dolls II

～ a magic to let dolls dance ～

2023/1/17(Tue.)～2023/3/5(Sun.)

(休館日はwebでご確認ください)

◎ 企画・監修

関 典子(せき・のりこ) / 薄井憲二バレエ・コレクション・キュレーター
Noriko Seki (Curator of Kenji Usui Ballet Collection)
舞踊家・振付家・舞踊研究者。幼少よりクラシックバレエを学び、18歳でコンテンポラリーダンスに転向。お茶の水女子大学大学院博士後期課程を経て、現在、神戸大学大学院人間発達環境学研究科准教授。日本ダンス評論賞・兵庫県芸術奨励賞・神戸市文化奨励賞等受賞。

◎ 企画・協力・テキスト

古後 奈緒子(こご・なおこ)
Naoko Kogo
舞踊研究者。京阪神の上流芸術のフェスティバルに記録、批評、翻訳、アドバイザー等で関わる。現在、大阪大学大学院人文科学研究科芸術学専攻アート・メディア論コース所属、准教授。

若林 絵美(わかばやし・えみ) / 薄井憲二バレエ・コレクション・アシスタントキュレーター
Emi Wakabayashi (Assistant Curator of Kenji Usui Ballet Collection)

後藤 俊星(ごとう・しゅんせい) / 薄井憲二バレエ・コレクション・アシスタントキュレーター
Shunsei Goto (Assistant Curator of Kenji Usui Ballet Collection)

兵庫県立芸術文化センター 薄井憲二バレエ・コレクション 担当

〒663-8204 兵庫県西宮市高松町2-22 tel: 0798-68-0223 (代表) fax: 0798-68-0212



Kenji Usui Ballet Collection

薄井憲二バレエ・コレクション

2023企画展

《人形たちの饗宴II》

～人形を動かす魔法とは?～

2023/1/17(Tue.)～2023/3/5(Sun.)

子供の頃、ショーウィンドウに並ぶ人形やフィギュアの前で、ふと動けなくなったことはありませんか?私だけを見つめ返し、秘密のことで「連レテ帰ッテ」と言っているような。人目がなければ今にも動き出さんと思われるような。そんなわくわくぞくぞくさせる人形たちが出てくるバレエを、前回の《人形たちの饗宴I》(2020/2/11～3/15)に開催)で集めたところ、人形の精がキラリと合図を送ってきました。

その手に握られていたのは魔法の杖。優雅な一振りでも人形たちはポーズを解かれ、眠りから覚め、あるいは生命を得たように踊り出します。《人形たちの饗宴》の始まりです。

本企画では、この魔法を支えるテクノロジーに注目します。そして、魔法の杖が誰の手に渡りどう変わって私たちの手元にあるのかも、考えられればと思います。

『人形の精』

(Die Puppenfee / The Fairy Doll)

- [台本] ヨーゼフ・ハスライター、フランツ・ガウル
- [音楽] ヨーゼフ・バイエル
- [振付] ヨーゼフ・ハスライター
- [美術] アントン・プリオン
- [初演] 1888年10月4日 ウィーン帝立・王立宮廷歌劇場(現 ウィーン国立歌劇場)
- [出演] 「人形の精」カミラ・バリエロ 「店主」ルイ・フラッパー
「助手」ヨーゼフ・ハスライター

電気の女神としての人形の精

～変容と分布～

世に数多ある劇場で毎年星の数ほど生み出されるバレエ作品の中で、上演継続やアダプテーションを決める要因はどこにあるのでしょうか。「人形の精」の桁外れの公演回数は、制作や興行上の事情を考慮しても、確かに「途轍もない成功」と言えるものです。ところがその「秘密」をウィーンの舞踊史家は、台本でも音楽でも振付でもないどこか別にあつたと見えています。ここで考えられる要因のうち欠いてはならないものが、1880年代より近代化の波とともに世界を席卷してゆく電気です。その科学技術としての実現の初期段階にバレエ／バレリーナは優秀なメディアとなり、先鞭をつけた「エクセルシオール」に続き「人形の精」も、まさに魔法のようなセンセーションをもって、電化＝文明化の旗振り役を務めたと考えられます。

プログラム
「エクセルシオール」
(PR-685)



台本「エクセルシオール」フランス(NK)



楽譜「人形の精」(SC-48)



大阪電灯株式会社
開業20周年絵葉書(NK)

「人形の精」
レオン・バクスト画
(PC-COS-01)



「人形の精」アンナ・バグワロフ(PH-D-196-08ws)

複数の『人形の精』

～リメイクとアダプテーション～



食品「Liebig」トレーディングカード
「人形の精」(CB-05-05)

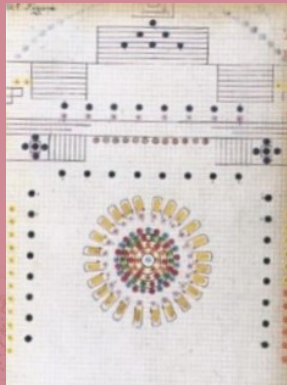
バレエ・リュス「風変わりな店」の翻案元として知られる「人形の精」には、いくつかの源泉があります。歌劇場初演に先立ち、ウィーンのリヒテンシュタイン公爵で行われたチャリティーイベントの中で、P.メッテルニヒ侯爵夫人がホストとして店主役を演じ、貴族の令嬢たちが人形に扮した「人形店」の中で、「Im Puppenladen」。さらに、原作は侯爵夫人がパリで見たオリヴィエ・ストラ作曲、マダム・マリキータ振付のヴァリエエテの演目とされますが、その趣向はE.T.A.ホフマン作品を思い出させたようです。そして空前絶後の成功を取めたJ.ハスライターの振付は、地域と時代とメディアを超えて多様な関心を反映し、舞踊史をより興味深いものとする作品の「死後の生」を生き続けています。

劇場の電化とバレエの変容

～テクノロジーとジェンダー～



「画家の譚妄」(AP-020)



プログラム「エクセルシオール」(PR-685)

逆に電気はバレエをどのように変えたのでしょうか。照明と舞台美術による明暗法、自然な演技、群舞の編成、制作における技芸間の序列やジェンダー分業、観客の鑑賞・社交行為…様々なことがわかってきました。その中から、この時代の人形が最もよく体現し得たであろう夢として、絵画や彫刻などの芸術作品が生命を得たように動き出す(ように見える)というテクノロジーの展開が挙げられます。身体技術と光学技術をまたいで様々に探求されたこの夢はまた、多かれ少なかれジェンダー化された舞踊界で、女性が表現し才能を発揮する活動を支えるものともなりました。